

# ぽれぽれレター

## ぽれぽれレター

第21号  
2013.08.01



### 理念

「人とよりそう ひらかれた病院」

### 病院基本方針

※安心・安全ながん医療を提供します  
※医療提携を進め、地域医療に貢献します  
※豊かな人間性を持った医療人の育成に努めます

### 診療案内

内科 外科 脳神経外科  
整形外科 耳鼻咽喉科  
婦人科 泌尿器科 放射線科  
消化器科 緩和ケア科  
乳腺外科 腫瘍外科

#### 【診療受付時間】

午前8:30～正午

#### 【診療時間】

平日 午前9:00～午後5:00

土曜 午前9:00～正午

#### 【外来の休診日】

日曜・祝日・年末年始

#### 【お見舞い時間】

正午～午後8:00



## 医療コラム ～乳がん～

近年、日本でも乳がんの発症が急増し、日本人女性の16人に1人が一生の間に乳がん罹患するといわれています。しかしながら乳がんは早期に発見して最善の治療を受ければ最も治りやすいがんの一つでもあります。乳がんの発見には症状がなくても定期的な検診が重要ですし、検診で精密検査が必要と言われた方に対しては正確な画像と病理診断を行うことが重要です。

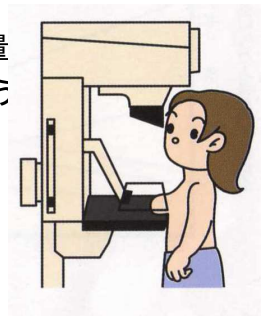
現在日本では毎年約3万8千人の女性が新たに乳がん罹患しており、毎年1万人の女性が乳がんで命を奪われています。

日本人の乳がん罹患の特徴は、40～50歳代にピークがあることです。死亡率においても30～50歳代の女性のがん死亡の第一位は乳がんとなっています。以上のように乳がんは働き盛りの日本女性が一番罹りやすいがんであり、働く女性の敵と言わざるを得ません。日本女性を乳がん死亡から救うためには、早期発見、早期治療を行う以外に良い方法はありません。では早期に発見するにはどうすればいいのでしょうか。

## マンモグラフィ

マンモグラフィは、乳房を装置で圧迫し薄くのばして撮影を行います。人によっては痛みを伴う場合がありますが、圧迫することによって、乳腺が広がり、乳腺内の石灰化や腫瘤を観察することが可能です。特に他の検査では検出困難な微細石灰化が検出可能で、乳がんの早期発見に役立っています。

放射線被ばくを気になさる方もいらっしゃると思います。ですが出来るだけ少なく、適切な線量を照射していますので、年に数回撮影しても健康には何も問題ありません。むやみに検査を行う必要はありませんが、1～2年に1回の定期検診をお勧めします。(放射線部)



### 乳がんの危険因子

習慣的アルコールの摂取・閉経後の肥満・高カロリーな食事・乳がん家族歴、  
良性乳腺疾患既往・早い初潮(13歳以下)・遅い閉経(55歳以降)・未出産

## 乳腺超音波検査

超音波検査は全く痛みがありません。そして放射線被ばくの心配がないので、妊娠中も検査することが出来ます。また体に害が無いため何回でも検査が出来ます。触ってもわからない数ミリ程度の小さなしこりの発見や、乳腺症や良性のしこりのようなものから乳がんまで、早期に発見することが出来ます。形やしこり内部の状況まで見ることができ、これにより、熟練の医師なら超音波検査だけで約9割の乳がんの診断が可能だといわれています。

ですが、短所もあります。超音波検査では乳房内の石灰化を映すことはほとんど出来ないため非浸潤癌(極初期のがん)を発見することはほぼできません。



それと脂肪の多い乳腺(閉経後に多い)の場合は、脂肪と乳がんの違いを読み取ることが困難な場合もあります。本当に小さながんの発見や、脂肪の多い乳腺の場合はマンモグラフィ検診のほうが有効でしょう。この2つの事柄以外では超音波検査はとても優秀といえるでしょう。乳腺の発達している若い方や、乳房に傷や痛みがありマンモグラフィ検診を受けることが難しい方にとっては最適な検査方法と言えます。(臨床検査部)

# 手術室！？



当院に手術室があることをご存知でしょうか？  
正面玄関にある案内表示には手術室は表示されていないため、手術室のことをご存知でない方も多いと思います。手術室のことを知っていただくために、この誌面を借りて簡単ですがご紹介いたします。手術室は地下1階のスタッフエリアにあります。

一般の方は自由に入出入りが出来ない区域なので、案内表示からはわざとはずされています。

当院での手術の多くは消化器外科疾患に関係するものです。最先端の腹腔鏡手術の設備もあります。腹腔鏡手術は、腹部に1～数箇所の小さな穴を開け、そこから専用のカメラや器具を使用して行う手術方法です。手術の傷が目立たないことと、術後の痛みが少ないことなどが特徴です。他には乳腺疾患などの手術も行われています。

放射線療法、化学療法が主流の当院ですが、疾患の状況によっては手術の選択が最良の場合もあります。手術は医師をはじめとする医療スタッフと、患者様の信頼関係のもとに実施されています。写真は当院の手術室です。

## スタッフ紹介



(左から丹羽さん、吉田さん、浅井さん、渡邊さん、道浦さん、小橋さん)

今回は病棟&外来のクラークの皆さんです。

外来クラークのお仕事は外来の窓口に、来院された患者さんと、医療スタッフ(医師、看護師)や、事務部門(医事課)などとのパイプ役です。

本来の医療行為に医療スタッフが、専念できるように、様々な雑務を引き受けてくれています。

病棟クラークは、病棟内のナースステーションに常駐し、様々な事務業務を行います。業務の内容は実に幅広く、入院病棟において、医療行為をのぞくあらゆる業務に携わります。



## クラークさん

## 彩都の街から

彩都友誼会病院の道路向かいにある彩都バイオインキュベーション施設。ここには、新しい薬の候補や、バイオ・ライフサイエンスにまつわる研究を元に起業した、日本の将来を支える会社のたまごがたくさん育っています。

この彩都のたまごたちの活躍が、新聞やテレビで話題になることもしばしば。多くの人々を救いたい、自分たちの技術で社会をもっと良くしたい、みんなそれぞれの夢に向かって日々研究努力を重ねています。

そんな彩都バイオインキュベーション施設では、年一回、近隣の皆様に、この施設でどんな活動をしているのかをご紹介する一般公開イベントを行っています。例年、入居している会社のパネル展示やクイズ大会、お試しコーナーやスポーツイベントなど、医薬基盤研究所の一般公開とあわせて楽しめる内容になっています。

今年は11月30日土曜日に予定しています。皆様、ぜひお越しくださいね。



編集後記：今年も暑い夏が到来しましたね。とはいえ夏は花火やお祭りが楽しみな季節でもあります。しっかり体調管理して、楽しい夏を過ごしましょう。

発行者：中村仁信(病院長) 〒567-0085 茨木市彩都あさき7丁目2番18号  
編集長：福西康修(放射) TEL072(641)6898 Fax072(641)6097  
編集委員：宮田徹明(医師) 岩切昭夫(看護) 山田英津子(看護) 常島啓司(情報)  
志田原直子(医事課) 伴野真希(放射)



<http://www.saito-yukokai-hp.jp/index.htm>

「ほれほれ」はホームページからダウンロードできます！

このニュースレターご希望の方は総合受付・地下受付にお越し下さい